

市民のみなさんに愛されて 「市報たかはぎ700号」

昭和30年9月10日に発行された市報たかはぎ第1号、そこから数えて62年と8か月の今号で700号を迎えました。人間ならば還暦を過ぎた市報たかはぎ。今号ではこれまでのあゆみを振り返ってみます。



創刊号 (昭和30年9月10日発行)

「高萩市生活改善」という表題で発行されたのが「市報たかはぎ」の前身で、6ページの構成となっています。小峰市長の発刊にあたってのあいさつが1面を飾り、翌年8月発行の第11号からは「市報たかはぎ」の名称になりました。

当時は農林課が編集を担当しており、農家の人に向けた記事が目立ちます。特に「自家用に山羊を飼いましょう」という記事には驚きます。



人口

男性15,594人
女性15,824人
合計31,373人

第100号 (昭和41年1月5日発行)

第100号は昭和41年の新年号で、82号からは秘書企画課が編集を担当しています。

表紙は高萩高校から撮影したと思われる市役所庁舎で、「のびゆくたかはぎ」とのタイトルが付けられています。この号は4ページの構成で、安村市長と川松議長の新年のあいさつが1面を飾っており、高萩農協と松岡農協の合併により高萩市農業協同組合を設立などの記事がありました。



人口

男性16,032人
女性16,499人
合計32,531人

第200号 (昭和51年11月5日発行)

表紙は増設中のし尿処理場（現在の花貫クリーンセンター）が完成とのタイトルで、5万3千人分の処理が可能となる施設の写真が紹介されています。



人口

男性15,438人
女性16,049人
合計31,487人

今では市街地のほとんどが下水道の供用と共に水洗化され、この施設を利用するのは山間地域の一部世帯のみとなっています。214号からは表紙にカラー写真が登場し、297号市制施行30周年記念特集号から、A4判の大きさになりました。当時の編集担当は市長室広報広聴係です。





第400号 (平成5年6月5日発行)

表紙は(株)大心苑のホテルルーム係の仕事内容を伝える記事と写真が掲載されていました。当時は学生や社会人の合宿や研修、小中学生の宿泊学習などで頻繁に利用されており、高萩の名は知らなくても

大心苑の名前を知っている人が数多くいました。

このころは表紙と裏表紙が2色刷りで、ページ数は16～26ページと現在よりもボリュームのある市報が発行されていました。編集担当は市長室市民活動課です。

人口

男性17,468人
女性17,928人
合計35,396人



第300号 (昭和60年2月5日発行)

表紙は安良川公民館前をスタートする第10回新春高萩市民マラソン大会です。当時の編集担当は市長公室です。

この号は14ページの構成で、特集記事として国鉄(現在のJR)のダイヤ改正が掲載されています。

このころになると、市報の内容は現在の市報に近くなり、写真を使ったまちの話題の様なコーナーが登場しました。

人口

男性16,516人
女性17,197人
合計33,713人



第600号 (平成22年2月5日発行)

表紙は高浜運動広場で行われた消防出初式です。この年の出初式は市民参加型で実施し、同仁東保育園の鼓笛隊、東小学校のよさこいソーラン、高萩中学校の吹奏楽なども披露され、例年よりも多くの人が見学したようです。

人口

男性15,204人
女性15,957人
合計31,161人



第500号 (平成13年10月5日発行)

表紙は島名地区で行われていた枝豆の直売会の様子です。

このころは表紙と裏表紙がカラー刷りで基本は16ページでしたが、20ページで発行した号もあり、ほぼ現在の市報と同じような構成となっています。編集担当は秘書課でした。



人口

男性16,992人
女性17,503人
合計34,495人

